

# 教員情報

## 農業経営学科

### 教授 阿部 和幸

国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構  
果樹茶葉研究部門 果樹品種育成研究領域長などを歴任。  
●果樹の各樹種に関する品種改良・栽培生理・果実の貯蔵に  
関する技術開発の状況/生産・流通の現場における開発技術  
「食味が良く外観の美しい果物は暮らしを豊かにしてくれます。そのような魅力ある果物を生産する上で、果たしてどのような栽培技術が駆使され、また特長ある品種が利用されているのでしょうか?本学では果樹園芸学と高品質果実生産技術について、基本から応用、先端技術までを実践的に学ぶことができます。人々の暮らしに彩りを与える果樹に関わる新しいビジネスを将来ぜひ展開してほしいと思います。」

### 教授 古野 伸典

山形県立園芸試験場野菜花き研究部研究員などを歴任。  
●積雪寒冷地における園芸用温室の熱収支解析/栽培中に  
燃油をまったく使わないパワフル栽培/光センサーを利用した  
えだまめの品質評価と栽培改善  
「社会や世界が大きく変化している今、若い世代の柔軟な発想力、企画力が求められています。この活躍のスマート農業、まさに異分野技術の融合で生まれた新しい技術です。園芸分野でもIT技術を駆使した新たな農業経営が続々と生まれています。既成概念にとらわれずに新しい発想で、次代の技術を生み出し、ワクワクするようなビジネスを創り上げましょう。」

### 教授 黒瀧 秀久

東京農業大学生物生産学部自然経営学教授などを歴任。  
●農業を経済学、経営学の視点からの研究  
「私の担当する農業理論、農山村活性化論、農業政策などは、農業の政策を歴史的に学び、現在を振り返る日本の農業を地域全体から活性化するために、学びながらその具体的な学生生活を一緒に考えたい科目です。現場で実践的に農業の再生を図る担い手を育成する東北唯一の大学であることを認識して、研究教育に学生諸君が挑むことを期待しています。」

### 教授 是川 邦子

山形県立農林大学校教授などを歴任。  
●農業を起点とした多様な展開(6次産業化)に関する研究/  
農産物販売に関する研究/女性農業者の組織活動に関する研究  
「食品加工をはじめ、農業生産を起点とした多様な展開(6次産業化)は、新たな農業経営を切り拓くチャレンジです。そして、さまざまなアイデアを持つ人材が活躍できる分野といえます。本学は規模が小さいから、学生と教職員との距離が近く、友人や地域の皆様ともたくさん語り合えるアウトホームな大学です。全身全力で最上地域を堪能する4年間を過ごしてください。」

### 教授 齊藤 邦行

岡山大学工学部環境生命自然科学学域 特任教授・  
名誉教授などを歴任。  
●水稲・ダイズ品種の多収性の解析/地球温暖化が作物生産に  
及ぼす影響/水稲有機栽培に関する生産生態学/作物の物質生産に及ぼす暗呼吸の影響/水稲の窒素利用効率の向上/  
ダイズの耐倒伏性向上に関する研究  
「環境保全と地方維持を前提とした圃場作物の多収性・高品質・安定・低コスト・安全安心・持続性に調和のとれた作物生産技術開発を目標としています。AIやロボット、IoTといった先端技術を活用したスマート農業技術、温暖化など気候変動に適応した品種や栽培技術、温暖化ガス削減栽培技術、持続可能な有機農業技術の開発や普及が喫緊の課題です。」

### 教授 佐藤 武義

山形県園芸試験場研究員などを歴任。  
●トルコキョウの光合成特性、光形態形成反応及び日長反応  
特性の解析と生産技術に関する研究/タケノコ(タケノコ)の  
ピエラム(スノーボール)の休眠打破技術に関する研究/新規の  
切り花や切り枝類等の生理生態的解析と生産技術に関する研究  
「園芸、農業は生き物であり、日々発展しています。バイオサイエンスの最新の知見等を活かし、園芸、農業の発展方向を見据えて、学修を深めるとともに自らの将来像の描いてみまわす。将来、活躍する分野が大切で、経営理念を持ち、自分に適性をかけ個人として成長を目指すことが大切と考えます。新しいアイデア、新たな交流、五感の育み、知識の蓄積、地域文化の享受等のさまざまな魅力がふたれています。」

### 教授 胡 柏

愛媛大学教授などを歴任。  
●環境保全・有機農業の技術と経営の実態把握、経営拡大に  
向けた新規の取組の効果的活用、有機農産物の消費形成と  
市場拡大の条件解明等に関する研究  
「農業は経済的に成り立ち、社会的・環境的に持続可能な産業でなければなりません。新しい時代にふさわしい元氣な農業経営を目指す皆さんと志を共有し、ともに学び、耕していくことを楽しみにしています。また、本学で学んだ知識や技能を活かして農林業経営者または関連産業分野のスペシャリストとして活躍し、自分や高、家族を養い、可能な限り多くの税金を納めて恵まれない人や健全な社会の構築のために役に立ちたいと思います。」

### 教授 宮坂 篤

国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構 管理本部技術  
支援部九州沖縄技術支援センター 支援センター長などを歴任。  
●水稲の病害に関する研究/麦類の病害に関する研究/  
新しく発生した病害に関する研究  
「作物も私たち人間と同じく健康(健全)であることが何より大切です。作物保護学は、生産物に起因して病、害虫、雑草から守り健全に育てていくという分野です。農業の生産性向上と生物多様性も目指します。作物保護についてぜひ一緒に学びましょう。」

### 准教授 多田 史人

山形県農業総合研究センター園芸農業研究所 バイオ育種部  
専門研究員などを歴任。  
●果樹の品種開発を効率化する栽培技術、遺伝子技術(DNA  
マーカー)遺伝、GWAS解析、ゲノミックセレクション/果樹における  
スマート農業  
「果樹栽培の基本から近年開発された品種、栽培技術、遺伝子技術、スマート農業まで、本学の実習や講義で論理的に学び、農業の実践力を身につけていきます。現場実習で共に汗を流した友人たちとは、卒業後も仕事を一緒にして上での関わりを持つことが出てくると思います。学業だけでなく、ぜひ農業関係の仕事をしていこうという友人づくりにも励んでください。」

### 准教授 塩野 宏之

山形県農業総合研究センター食の安全環境部  
専門研究員などを歴任。  
●土壌中の養分を考慮した適正施肥に関する研究/地  
域の未利用有機質資源を土づくりに利用する研究/  
水田から発生する温室効果ガス(メタン)を削減する研究  
「土壌・栽培は、土壌微生物等を対象としたミクロなことから、地球環境等のマクロなまで扱う幅広い学問です。この魅力ある分野について、ぜひ学んでみませんか。本学では県内外の優れた農林業経営体で、現場の活きた技術、経営を学ぶことができます。農林業を基礎としながら、友人や地域の人と積極的に関わりを持ち、人生でかけがえのない4年間を過ごしてほしいと思います。」

### 准教授 石黒 亮

農業総合研究センター園芸農業研究所長などを歴任。  
●寒冷地果樹(オウトウ、セイヨウナシ、リンゴ等)を中心とした品種  
開発、各主要形質の遺伝様式、成熟生理、樹体生育に関する  
研究/寒冷地におけるカンキョウの生育、果実特性に関する研究/  
加工用果実生産、利用に関する研究  
「果樹栽培において、共通の基本技術以外、正解はありません。いろいろなアプローチから突き出されるやり方があるはずで、それは果樹樹にたくさんあはらずです。皆さんと一緒に果樹園で答え探しをしましょう。また臨地実習で現場の実学も学ぶことができます。先進農業者の方々と対話や行政施策の中から栽培技術、販売戦略などの課題解決方法を学びましょう。」

### 准教授 齊藤 政宏

(独)家畜改良センター生産衛生部長などを歴任。  
●肉用牛・乳用牛・豚等の家畜の診療/牛の受精卵移植・  
人工授精に係る調査研究/農場防疫の強化/  
家畜伝染病の浄化対策/これらに係る海外技術協力  
「近年、国内外で猛威を振るう重大な家畜伝染病の侵入を防ぐため畜産関係者は、家畜伝染病対策に厳しく取り組んでいます。また消費者からは、畜産物の安全・安心が高まっています。そのような中、家畜衛生学では、畜産産業にとって必須の家畜伝染病の侵入防止対策、生産性及び安全性の向上のための衛生管理、さらにアンリアルワールド・SDGsへの配慮の取組等を扱ってまいります。」

### 准教授 柴田 康志

農業総合研究センター水田農業研究所研究主幹などを歴任。  
●水稲や大豆の栽培技術の研究や普及  
「水稲」「大豆」の栽培マニュアルを作成。  
「圃場実習で水稲や大豆の栽培技術を担当します。これからの東北の農業に新しい風を吹かせる若い人材を育成していきたいと考えています。大学ではどんな分野でも興味を持ったことに、積極的にチャレンジしてほしいと思います。「儲かる農業」、「地域を支える農業」、「環境にやさしい農業」など新しい農業のあり方を探究しましょう。」

### 准教授 吉仲 怜

弘前大学農学生命科学部助教。  
●農業経営学/農業経営学/農業6次産業化/  
地域農業の担い手と農業労働力問題/果樹物の経営評価/  
水田作経営の経営戦略/農村RMO等の育成支援  
「農林業は、技術の特性の理解のみならず、経営・販売(マーケティング)戦略や財務・制度・社会環境の把握など、マネジメントの視点も重要です。ここでは学業を通して、この分野で、臨地実習を通して現場で活躍する農林業経営者に学べるチャンスがあります。現場での農林業を通じた4年間の学びは、将来どのようなキャリアでもきっと活かされるはずです。」

### 准教授 庄司 則章

山形県農業総合研究センター畜産研究所  
開発研究員などを歴任。  
●山形牛・米沢牛の遺伝学分析からその特徴を明らかにする  
研究、及び飼養管理に関する研究  
「臨地実習を通して、生産者から実践的な技術や経営方針を学ぶことができます。そして、それぞれの生産者が抱える課題を肌で感じることができ、課題解決のための研究は、通常の農学部ではほぼ取り扱いません。研究により課題解決する事例が多岐にわたるため、日本の農業を元気にしていくとともに、東北農林専門職大学の存在意義を多くの方々に理解いただけたらと思います。」

### 講師 高尾 模一

山形県農業総合研究センター畜産研究所  
主任専門研究員などを歴任。  
●家畜の飼料に関する研究/家畜の飼養管理に関する研究  
「山形県は食材の宝庫と言われています。地域の皆さんも将来おいしい農畜産物を生産販売できるプロフェッショナルとして活躍できるよう、本学では臨地実習実習により生産現場や経営管理の場に長期的に触れることができるのが大きな特色です。自然や生き物に関心のある方には、農業を学び体験し、達成感や挫折感を経験することで、自分のやりたいことを見つけてもらえると思います。」

### 講師 森 和也

山形県農上総合支庁産業経済部農業技術普及課地産地直室  
主任専門研究員などを歴任。  
●野菜類の省力、高品質、安定生産に関する研究/温暖化や気象  
変動に対応するための研究/農業だけではない、病害の抑制、  
軽減に関する研究  
「栽培、生産理論や技術は、農業経営を発展させるための重要な要素で、必要な知識や技術は幅広く、奥深いものです。基本をしっかり修得し、応用できる人材をめざして学びたい。また、本学では多様な学生、多様な教員、多様な現場と関わりながら、農業や森林業において成功するための道を模索することができます。ぜひ、頭を柔軟にし、色々なことを体験、吸収し、試行錯誤から多くのことを学んでください。」

### 講師 鬼島 直子

山形県農業総合研究センター食品加工開発部  
主任専門研究員などを歴任。  
●米資源の高付加価値活用技術に関する研究/地域特産物を活用  
した新しい食品の開発/食品の食感を示す物の評価方法の開発  
「食品の科学は、どんな人にも身近な学問で、日常の食の疑問を解決し自分の生活や健康に役立てることができる。地域の産業となるような新しい食品の開発は欠かせません。新しい知識を学び、一緒に研究しましょう。また自分自身社会について深く考える時間を持つてほしいと思います。将来の目標が定まったら、目標に向かって大学を思いっきり活用してほしい。我々教員にもたくさん相談して、使えるものは何でも使ってください。」

## 森林業経営学科

### 教授 大久保 達弘

宇都宮大学農学部森林科学科 教授などを歴任。  
●生産や環境を目的とした里山林の取扱いおよび農地との  
一体的活用に関する育林研究/温帯林から熱帯林の  
生態系修復に向けた森林植物の世代交代に関する生態研究  
/里山林生態系の環境創射策モニタリング  
「樹木では森林を構成する樹木の植物学知識と、樹木を人間がどう活用してきたかを学びます。そこから森林生態系に視点を広げ、樹木が生きていく上で森林を形成することの適応的意義について学び、さらに造林学では森林の持続的管理に必要な森林の取扱いについて学修します。卒業後は森林系公務員、森林組合などの林業事業体だけでなく、全く新しい形で森林業として起業していくなど、幅広い分野にチャレンジし活躍してほしいと思います。」

### 教授 藤本 登留

九州大学大学院農学研究准教授などを歴任。  
●SDG17年等環境目標、および国産農業樹材の適正加工  
技術に関する研究/木質利用と畜産の連携/高付加価値化技術  
に関する研究/各種処理木材の耐久性評価に関する研究  
「木材科学、木材利用理論などの産学、木材加工・販売などの演習を担当します。東北における農林業においては、後継者問題が叫ばれている中、実務者養成の4年生大学が誕生することにより、新たな若手従事者・経営者モデルが増えていくことが期待されています。現地実習も多くの学生の良さを活かし、ぜひ自分の視野や人間関係を広げていってください。卒業後は自分で考え活躍していく実務家や経営者として活躍していただきたいと思います。」

### 教授 堀 靖人

国立研究開発法人 森林研究・整備機構 森林総合研究所  
研究コーディネーターなどを歴任。  
●森林を活かした地域の課題解決手法の研究/  
林業や森林経営の担い手に関する研究/  
D-ITの森林と林業に関する研究  
「地球温暖化に対する対策は待ったなしです。また、生物多様性やSDGsの実現はこれからの社会には必要不可欠です。持続可能な農林業を確立することはこれらに共通の課題に繋がります。同時に持続可能な地域経済、社会の実現もつながっています。好奇心を持って、何でも見て聞いて、自分の頭で考えていってほしいです。また、結論(疑問)に対する答えは急がなくてもいいと思います。また一緒に学んだ友達は一生の友達です。」

### 准教授 小山 敢

鳥取県林業試験場森林管理研究室長などを歴任。  
●林地で発生する土砂災害に関する研究/  
林道・作業道等の適切な整備に関する研究/  
森林労働災害防止のための研究  
「森林に関わる仕事は、健康的で人生を豊かなものにしてくれます。この素晴らしい森林業の発展のために、林地で発生するさまざまな災害の減災を図るための知識や考方を習得します。インターネットで多くの情報が簡単に入手できる時代ですが、実体験に勝るものはやはりありません。学業の時にしかできないことを心にとめてほしいと思います。そうすればこの4年間の経験が、人生を豊かなものにしてくれると思います。」

### 准教授 菅沼 秀樹

一般社団法人日本森林技術協会 事業部森林情報グループ  
専門技師などを歴任。  
●温暖化対策としての植林地設計および炭素吸収量評価/  
バイオマス発電へのバイオマス燃料供給シナリオの分析/  
森林生態系の調査・分析(地上計測/リモートセンシング)  
「森林業を通して地域の・地帯的な課題を解決しようとする、さまざまな学問分野の知識が必要で(森林生態、植物生理、測測・測量、統計解析、Life Cycle Assessment、土壌学、土壌化学、水文、熱力学、化学工学等)。東北農林専門職大学の講義・演習・研究等を通じてその一端でも習得してもらえようと思います。炭素社会は企業活動の足踏みではなく従来のビジネスチャンスです。カーボンニュートラル&ネガティブを実現可能な森林業は、その可能性に溢れています。」

### 講師 古澤 優佳

山形県森林研究センター 森林資源利用部 主任専門  
研究員などを歴任。  
●モウクツクの栽培、管理、新たな活用方法の研究/  
山菜類の栽培期間短縮化方法の研究/  
山菜の二次産物の成分分析による付加価値増加に向けた研究/  
野生動物被害の調査と防除方法の研究  
「山菜やその他のといった非木材森林産品(特用林産物)は、森林業の中でも数少ない、食に関する分野です。山の恵みを活用する方法と一纏めに考えてみましょう。また、最近問題となっている、野生動物人間との関わりについて学んでほしいと思います。できる限り多くの実際の生産現場に向かい、自分の目で見て、現場の人の声を聴き、体験を通して体で学んで、自分の頭で考える。これを繰り返しながら学んでほしいと思います。」

### 講師 上野 満

山形県森林研究センター 主任専門研究員などを歴任。  
●立地環境の違いによる樹木の生育に関する研究/  
目的に応じた林業の分野での研究  
「森林・林業の分野は幅広く、個々人の自由な発想によりさまざまな展開が可能です。森林・林業の基礎を学びながら、森林の持つ可能性を広く活用していきましょう。また、森林の産品(目的)を持った森林管理を行うためには、樹木、昆虫、鳥などの生物やそれらを取り巻く環境に関する知識が必要で、森林のさまざまな機能発揮に向けた森林づくりを一緒に考えてみましょう。」

### 講師 吉崎 明

山形県立農林大学校林業経営学教員などを歴任。  
●オズ人林における冠層の発生要因と育林の最適化  
技術について/小中学校の教員員による学校教育に  
関する森林学習の進め方について  
「森の中で森を感じ、森について考え、森の恵みを私たちの暮らしと結びつける技術をめざす。将来の選択のいつとて提案します。現場を大切に、現場から物事を考える森林技術者をめざしてください。また、他の学生や教員、さまざまな分野の方々とのコミュニケーションを通して価値観を広げてください。そこから、新たな展開が見えてくるはずです。」